

2005年1月台湾遠征第2便 ドジ&ラッキー集

日時 2005年1月6日～12日
遠征場所 台湾屏東懸 賽嘉航空公園
メンバー 東野、黒田、村松、永井（敬称略）

最初に

過去、パラグライダー海外遠征において、最初にドジをスタートさせる某氏、12時の集合時間前すでもう1人のメンバーと指定場所に陣取っている。自分が遅れたか！と一瞬“ドキ！”とした村松 時間を確認して“ホ！！”とする。それでは、某氏の過去のドジを思い出してみよう。

出発時間を12時間間違える。（つまり午前と午後を間違えた）幸い早いほうに間違えたため自分ひとりが空港で12時間余分に待っただけだから他の人に実害はない。

本人談「午前と午後を間違えたのは第一回カステホンツアーのときで（アヌシー遠征のあと）、その朝千葉君の車がとうとう時間までに来なかったので、やっとその時間は午後だとわかり実際には空港にその間違った時間には行っていません。

自宅で自分自身に落胆、悶々としておりました。」

自分で計画し全員に連絡した遠征予定の帰りの日にちを1日間間違える。

（つまり日付変更線を越えるのを計算しなかったため、過去に戻ったことになる）出発当日空港にて知らされ帰国後すぐ会社に出勤しなければならないメンバー数人が実害を受けてしまった。

自分の都合のよい集合時間を決めたにもかかわらず、ただ1人、30分集合に遅れる。（バスの遅れとのこと）

このときはしっかりと“罰金パーティー”が開催された。

これに懲りて今回は電車で来たとのこと。

他に皆の知らないドジは無いか聞いてみたら、パスポート忘れたのが1回、出発時間に遅れたのが数回、ぎりぎりに間に合ったのが1回 そんなもんだ とのこと。

台湾だって冬は寒いよ

1月5日、帰国した1便の遠征メンバー森より電話連絡が入った。“今年は寒いよ、長袖、長ズボンが必要だ。セーターもあったほうがいい。”と、すでにパッキングは完了していたが、急遽入れ替える。

が、高雄の空港に出迎えの永井は 短パンにTシャツ。丁度一便の帰った日から暖かくなってきた とのこと

最終日、お土産でバックが一杯になった村松は 長袖のシャツ1枚、長ズボン1着をホテルのゴミ箱においてくる羽目になった。(もともと、破れたからだけど、)

温泉に行ってきたよ

同様、森からの電話で “とりあえず、全員 温泉まで行ってきたよ！！”
これを聞いた2便メンバーはハッスルした。特に東野は“水着”をしっかりと持参(台湾の温泉は水着を着てはいるのです)。飛行機の中でXCを誓い合う。
が、、高雄空港で出迎えの永井との話しが微妙に食い違う。

“どれくらい時間がかかった？” == “1時間以上かかった、遠いよ！”

“温泉に入った？” == “いや入らない。食事ただけだよ！”

“いつ行ったの？” == “最終日だったかな！”

“全員行けたなんてすごいな？” == “だって、、車だもの。。。！！”

そうです、早とちりするように話した森の電話に**乗せられた2便メンバー**が悪いのです。

迷子札

よし、我々こそはXC、と 作ったのは 次のような“カード”

「 我要求我的教練打電話

電話：0926-217989

教練：李楊馨

他開車来接我 我回去「賽嘉航空公園」

謝謝 我：永井、東野、村松、黒田 」

途中沈没した場合、村の人に見せて その場所を連絡し助けに来てもらうためのもの でも、、使わなかった よ。 使えなかった よ。

手数料

意気揚々と成田に向かう電車の中。 山口から村松に電話がかかってきた。

“今電車の中よ！” ”一言だけ！ お金チェンジは絶対日本でやっては駄目だ。高雄についてからやったほうがいいよ！ “ 指示通り2便の3人は成田でのチェンジをやめ、高尾で行うことにした。

¥30,000 レート0.29830 で NT\$8,949

手数料 20

実質 NT\$8,929

日本に比べ手数料がめちゃくちゃ安く**お得**となった

この情報のおかげで **2便 は ラッキー!!!**

1便のうち成田で交換した人は くそーー!!

ランディングが広すぎる

2日目、そこそこ の好条件に恵まれ、鉄塔トップアウトや1100mフライトを満喫した村松、東野は この日最終フライトを楽しんでいた。

完全な南風に変った風の中、LDをはるか離れた北側を飛ぶ東野、それを上空から見ている村松の耳に無線が入る。

“黒田です。アウトランディングしちゃいました。グライダーは木に引っかかっています。本人は地上で怪我もありません。” と、、、

どこに下りたのかな?と探す村松の目に**低い高度で一直線にLDを目指す東野機**が見える。届くのかな? と 楽しみに見ていると、LD端まで10mの地点でバサリとグライダーが木にかぶさってしまった。“会長、大丈夫?”と無線を入れる。

“大丈夫、大丈夫、 だけど1人ではグライダーが下ろせそうに無い” とのこと

“私のほうは数名助けに来てくれているので大丈夫です!” というクロちゃんの連絡で会長の救出に向かう私の頭の上を永井機がLDしてくる。

“まさか、あれって!!!” “そうです。会長とクロちゃんです!!!。”

のこぎりを手にし、木に登って枝を切っている会長をまず**記念撮影**し、グライダー下ろしを手伝う。果樹園を出てLDに入るときクロちゃん組とぼったり一緒になる。

“どこに下りたの?” “ちょっと短かったの、**100m**くらい奥!”

現地のイントラ 郭「カク」曰く“この果樹園も木を切って今度LDにするから広くなりますよ!” “ ” LDが狭くてアウトランしたんじゃない。いくら広くしても同じだ! **問題は他に有る**” と 目をむき永井がつぶやく、、、。

当日の夕食は目の前で生簀から取り出した大きな草魚丸ごと一匹料理(いろんな料理方法で全て食べる) で美味しかった。

支払い? **もちろん あの二人です。**

結婚式

我々の宿泊しているホテル「屏山旅館」の息子(金持ちの息子?)の結婚式が9日(日)にある。“夕方、時間があったら参列してくれ”との招待があった。当日の朝、空をみるとパラパラと小雨が降っている。 どうせ飛べないなら と昼からの結婚式に最初から参加することにした。

「**白鷺飛行傘会**(シルバーイーグルス)」からとして お祝い金NT\$ 2, 200 (中国社会では2が2つ続くのは非常に縁起がいいから)を渡す。

今日の料理は10品目とのこと、次から次へと見た事も無いような料理が続く。

すっかりカメラマンになりきった永井の今日の仕事は **“料理撮影”**

つい食べるほうに忙しく、お仕事を忘れがちなイントラの尻をたたいて全ての料理撮影を行った。残念ながら**配分計画**が悪く最後の料理数点は目で楽しむのみ。おなかが一杯でもう入らない。

テーブル数 約60 1テーブル10人 として 約600人の参列者に挨拶まわりにきたお二人（新郎：胡哲屏、 新婦：傳純玲）に覚えたばかりの

“ **早生貴子** （早く子供を作りなさい）” を4人で合唱、乾杯をした。

あなたも幸せになりなさいとおすそ分けされる高級果物（レンブー）を2個ももらったクロちゃん、同じテーブルにいた現地独身男性にモーションをかけたが、宴会が終わったら“仕事ですから、、、”と**逃げられてしまった**。

生乾き

経験豊富な永井イントラにいろいろ教わって準備してきたクロちゃん。

“洗濯すればいいじゃん！！”といわれ 持ってきたパンツは3枚のみ。

ここでは（室内）渴きが悪いよ と注意したにもかかわらず 予備の無くなったクロちゃんは洗濯を実行。だが3日目はご承知のごとく小雨。 乾くわけが無い。

4日目の朝 クロちゃん曰く “ちょっと湿っているけど **体温で乾かす**からいいわ！！”

当日はぶっ飛び条件で何回もTO、LDを往復して忙しかったから多分乾いたでしょう。 **以降毎回生乾き？** そんなことは知りません。

忍耐力

4日目は日差しもあり今日こそはと期待を抱かせる雰囲気。

TOにてもう少し、もう少しと待っては見るが逆に曇ってくる。

1本目をぶっ飛んでTOに戻る車の中で東野、村松はクロちゃんの無線を傍受する。

“今1200mです。雲の中に入りそうで怖い！！” うまくやってるなと急いで

2本目TOした村松、変りつつある風の中半分翼をつぶされ、あわや□□□□。

沖に出したりいろいろやっても沈むのみ。 もう一本とTOに戻る車の中に

“クロちゃん、ちょっと低すぎるんじゃない。届かなかったらサブランにしたら”

と 永井イントラの無線が聞こえる。車から出てみると、懸命にLDを目指している黒田機がクルリと向きを変えサブランに戻っていくのが見える。

そして“黒田です。サブランに降りました。怪我はありません！”と無線が入る。

丁度いいからと車をサブランに向けたが クロちゃんがない。いないのではなく上空からは草原と見えたサブランも行ってみると背丈以上も有るススキのような草に覆われどこにいるのかわからない。声を頼りに無事回収しTOに戻ると東野会長がただ1人ライダーを広げTOの広場を占有している。村松がTOした後ぱったりと風が無くなり“1時間以上もずっと待っている”のだそうだ。

それからまた数時間、時々フロントで元気にTOするフライヤーを横目に忍耐強く待っていた会長も“どうする。。。？”と言う永井イントラの言葉を合図に黙々とグライダーを片付け始めた。

さすが会長、今回の遠征ではLDの失敗はしてもTOの失敗はしないつもりらしい。TOの??報告は1便の 森、山口 両シルバーイーグルスに任せるつもりらしい。

無駄な努力

お土産を入手するために隣町の“御茶屋さん「高樹茶荘」”に行った。

永井が目をつけていた、ウーロン茶パーティー用テーブル（排水機能付）を入手するのが主目的であったが、店を見た**貝の埋め込み木製テーブル**の美しさに魅せられ村松もつられて購入することになった。1個NT\$ 2, 800をNT\$ 2, 500で努力の甲斐あって交渉成立。他にいろいろ買って最後に合計して支払ってきたが、後で計算してみると テーブルはしっかりNT\$ 2, 800相当になっている。

あの交渉努力は何だったのか！ **値切りの楽しさだけ** 味わってきたみたいだ。

帰国当日（12日）村松の家で早速このテーブルを使ってティーパーティーが開催された。シルバーイーグルスにも高尚な趣味が浸透し始めたようだ、、、？。